

■ 領域代表からのメッセージ

複合アニオン新学術プロジェクトが二年目に入りました。公募研究者が18名加わり、計画研究者の27名（うち連携研究者は5名）と合わせると45名の大所帯となりました。プロジェクトの開始当初、「複合アニオン」の知名度はまだまだと聞いていましたので、公募研究にいったいどれだけの応募があるのかと内心案じておりましたが、その心配が吹き飛ばすほどの数の応募があっただけでなく、研究提案も優れたものが大変多く、これには複合アニオンの科学に明るい未来を感じ、多いに励まされました。今回、採択された先生の提案はどれも複合アニオンの特色を活かした独創性の高いもので、今後の展開を楽しみにしています。また、計画研究と組み合わせて、今後、各研究分野にわたって独創的な研究をダイナミックに展開できるチームができたと確信しています。ただ、不採択となった提案のなかにも甲乙つけがたいものも多くあったことも書き添えておきます。本新学術では、まだ“得体の知れない”複合アニオン化合物の研究を推進するためにとことんまでコラボを進める（初める）よう促しています。本新学術に直接関わらない方でも、もし、複合アニオン系にご興味があればできるだけなんらかの支援ができたらと考えておりますのでお気軽にお問い合わせください。

5月28、29日に、九州大学でキックオフ会議が開催されました。公募研究メンバーが加わって初の合同会議となります。林さん、稲田さん、西之園さんやその研究室の皆さんには、開催までの準備、当日の運営にはご尽力いただき、お蔭様で盛会となりました。初日にあった公開シンポジウムでの評価者である幾原雄一先生の招待講演には、電子顕微鏡に関する先生の圧倒的な成果で感銘を受けると同時に、電子顕微鏡を使った複合アニオン系の新しい展開についてあれこれと妄想が膨らみました。他の評価者の先生方からも励ましとともに喝を入れていただきました。評価者の紹介欄にもありますが、この会議で上田寛先生からいただいた「Mixed is different」はいいですね。このもととなるノーベル賞物理学者のPhillip Andersonの「More is different」は、物理学者なら誰でも知っている言葉です。複合アニオン化合物は物理分野ではまだ認知度が少ないためこれから皆で使って広めていきませんか？！

さて、初日の夕方からのクローズドの打ち合わせでは、昨年8月のキックオフ会議の反省（初対面の研究者が多いため

比較的静かだった）から、学生を含め全ての参加者がなるべくざっくばらんに話せる雰囲気を作ろうとしました。その狙いがうまくいき、研究やそれ以外の話（人間を知ることが共同研究の第一歩！）で大いに盛り上がったと感じています。その後、総括班が把握している範囲で97件の新しい共同研究が立ち上がりました。すでに進んでいるものが150件ほど（これも総括班が把握する限り）ありますので、これから成果が続々とでていくのではないかと期待しております。新しいプロジェクトの中には、学生からのできたものも含まれます。キックオフ会議の直前に開催された若手スクールでは、参加した学生全員に新しいプロジェクトを提案してもらい、優秀な提案は表彰しました。領域代表ということで賞状を渡す役を仰せつかりましたが初めての経験で、緊張しました。

そのほかにも本新学術ならではの活動を展開しています。申請書に書いたお約束ごとにとらわれず良かれと思ったことはどんどん推進しています。その1つが、第一原理計算を実験（合成）家が自分でできるようにする試みです。これは前園さんによる昨年のキックオフ会議での提案です。前園さん、本郷さん、桑原さんのご尽力もあり、予想以上にうまく進んでいるように思います。参加した学生さんからもとても良かったとの声を聞いていますし、実際、小生の研究室でも参加学生の研究へのアプローチがわかりつつあることを肌で感じています。本ニュースレターにも関連記事がありますのでご覧ください。もう1つは、オックスフォード大学のMichael Hayward教授（写真左）の日本滞在の一部をレクチャーツアーと称して日本各所を回っていただいたことです。昨年の英国でのレクチャーツアーが思いの外プロダクティブでした（ニュースレターの第一号で記載）ので、その逆バージョンを日本でやったらどうか、という思いつきから提案しました。Hayward教授ご本人にも大変喜んでいただけましたし、レクチャーに参加した人の評判も上々のようです。詳しくはニュースレターの次号で報告する予定です。

（領域代表 京都大学 陰山洋）

